

ミスコンを用いた人物評価基準の調査

森山周平^a 宮口悠哉^b 渡邊慎也^c

要約

一般的に、容姿が優れている人ほど社会的に利益を受けやすくなり、容姿が劣る人は利益を受けにくいとされている。しかし、人物評価の基準は容姿以外にもあると考えられる。例えば、容姿が優れない人物でも、学力が高い、運動神経が良いなどの肯定的要素があれば、容姿の優れる人物に勝る場合もある。

そこで私たちは、容姿以外で人物の評価の大きな基準となるものがないかを、全国の大学で行われているミスコンのデータを用いて調べた。ミスコン参加者の中でも特に高い順位に人物に共通点があれば、容姿以外の人物の評価基準を見つけることができると考えた。本稿で調べた要素は、エントリー数・出身地域・身長・血液型・誕生季節・所属学部の6つである。

ロジスティック回帰分析の結果、本稿で調べた要素は、ミスコンの順位とは関係がないことが分かった。このことから、本稿で調べた要素は、人物の評価に影響を与えないことが示唆された。

JEL 分類番号 : D91

キーワード : 美貌度, 大学生, ミスコンテスト

^a 森山周平 東海大学政治経済学部経済学科 6bpe3101@mail.u-tokai.ac.jp

^b 宮口悠哉 東海大学政治経済学部経済学科 6bpe3102@mail.u-tokai.ac.jp

^c 渡邊慎也 東海大学政治経済学部経済学科 6bpe3118@mail.u-tokai.ac.jp

1. はじめに

ハマーメッシュ (2015) は『美貌格差』の中で、美貌度を原因とする社会的格差が生じていると主張し、これを美貌格差と呼んだ。美貌格差とは、容姿の優れた人は容姿が劣っている人よりも、社会的な利益を得やすいことを指すとしている。利益の得やすさが美貌度にも依存するのであれば、美貌度の低い人はより少ない利益しか得られないことになる。

美貌格差の一つとして、美貌度の高い人は出世が早いというものがある。容姿がキャリア形成に及ぼす影響について、小林 (2016) は、20 代時に容姿が良いからと言って、現在有職であったり、正規雇用であったり、ホワイトカラー労働者であるわけでは無い。しかし、役職に就く可能性が高く、容姿が劣っている人は 6.3%程度しか役職者がいないのに対し、容姿が優れている場合は 59.3%の割合で役職についているとしている。また、このように容姿の優劣が所得やキャリア形成に影響を及ぼす理由として、小林(同書)は、容姿が優れた人はこれまで告白をされたり、交際する機会に恵まれたため、自分の所属階層は高いと感じ、自信を持っているからであるとしている。

しかし、容姿が優れずとも、学力や身体能力などに優れる人物は時に容姿が優れている人物より、高い評価を得ることがある。そこで著者らは、美貌度以外にも社会的な利益が得やすくなる要素(属性)が存在するのではないかと考えた。そして、その要素(属性)が選択可能なものである場合には、本人がそれを選択することによって、社会的な利益が得やすくなると考えられる。容姿以外で人に好かれやすい要素(属性)が見つければ、美貌度による格差を少しでも埋めることにも貢献しうる。

その要素を見つけるため、大学生ミスコンのデータを利用して美人に共通する要素を見つけようと考えた。ミスコンでは、当然見た目の美しさも必要とされるが、それと同様に社会で生きていくためのスキル・社会性も問われる。容姿だけではなく社会性にも優れた人物がグランプリに選ばれやすい。そのため、容姿に優れており、なおかつ社交的な人物の共通点を見つけることができると考えた。美人に共通する要素の中に、誕生日や学部などの選択可能な要素があれば、容姿が優れている人と同様の選択することで、美貌度による格差を埋めることができるかもしれない。また、学部などに共通点が見つければ、美人が多いまたは美人が集まりやすい学部の傾向を見つけることができる。美人は将来的に社会で優遇されるため、そういった人物と親しくなることは、多くの利点があるといえる。

また、人物評価において容姿ではなくそれ以外の要素が重要視される場合もある。例えば、白人は黒人を自らのパートナーに好んで選択しないことが分かっている。米国での異人種間の結婚は非常に稀である。2000年の国勢調査のサンプルデータでは、既婚黒人のう

ち 94%が同じ黒人と結婚していることを示している。Simonson and Kamenica (2008) の行った実験では他に、米国内の既婚者のうち、異人種間で結婚しているのは既婚者全体のわずか 4%しかいないということが明らかになったとしている。このように、白人の多くは結婚相手の選択に容姿や年齢、収入ではなく白人であるかということを最も重要視していることが分かる。

もし、容姿より人物評価の基準として重要度の高い要素を見つけることができれば、容姿に劣る人でも社会的な利益を得やすくなる。また、その要素が選択可能なものであれば、意図的に社会的な便益を得やすくすることができる。逆に、美貌度以外の要素が社会的な便益を得やすくなることと関係がなかった場合、人物の評価は美貌度を大きな基準として扱っていることが分かる。したがって、容姿以外にも性格などの様々な要素が問われるミスコンを用いた実証分析を行い、容姿以外に社会で評価されやすい要素を見つけようと考えた。

2. 方法

本実験では、2008 年から 2017 年の過去 9 年間の（ただし、2016 年を除く）ミスコンのデータを使って、Google 検索を利用し「ミスコン」と検索した際に、最上位にヒットしたサイトである「MISS COLLE ミスコレ|ミスコン・ミスキャンに特化したポータルサイト」を利用してデータを収集した。2016 年のミスコンを分析する際のデータとして除いたのは、今回利用した Web ページの中には、2016 年のミスコンについて全く掲載されておらず、データを収集することが困難であったために、本実験においては、2016 年のミスコンのデータは除外し、過去 9 年間のミスコンデータを使い分析することとした。66 大学のミスコンのデータ 1,020 件を収集し、そのデータの中にある外れ値 49 件のデータを除いた 971 件のデータを用いてロジスティック回帰分析を行った。各大学のミスコンデータは名前・所属学部・誕生季節・血液型・身長・出身地・大学名・エントリー数・実施年度・順位に分け、それらをカテゴリー変数として整理した。

カテゴリー変数は Excel の VLOOKUP 関数を用い、順位は Excel の IF 関数を用い、重複のないカテゴリー別に抽出した。

分析の方法としては、ミスコンにおけるグランプリと準グランプリの受賞者を 1 とし、それ以外のエントリー者を 0 と分けるバイナリ変数を作成して、ロジスティック回帰分析を行った。本研究の被説明変数は二項分布すると考えられるため、ロジット回帰モデルを用いた。回帰式は以下の通りである。

$$Y=\log[P/1-P]=B_0+\text{所属学部}+\text{誕生季節}+\text{血液型}+\text{身長}+\text{出身地域}+\text{エントリー数}, (1)$$

以下に、6つの各カテゴリーと順位の集計データを示す。

集計データのNはカテゴリー別に分けた際、2008年から2017年の過去9年間（2016年を除く）に行われた66校の各大学のミスコンのデータ1020件のうち、そのデータ内にある外れ値49件のデータを除いた971件のデータを指すものである。

表1. 記述統計量

ststs	mean	max	min	sd	N
学部カテゴリー	1.177137	2	1	0.381981	971
誕生季節カテゴリー	2.543769	4	1	1.105231	971
血液型カテゴリー	2.193615	4	1	1.045166	971
身長カテゴリー	3.757981	7	1	1.028524	971
出身地カテゴリー	3.215242	8	1	1.904421	971
エントリー数カテゴリー	4.221421	6	1	0.737364	971
順位	0.333677	1	0	0.471769	971

3. 分析

分析の方法として、ミスコンのグランプリと準グランプリに選ばれた人を1とし、選ばれなかった人を0とするバイナリ変数を作成して、ロジスティック回帰分析を行った。

この分析結果から分かることは、エントリー数・出身地域・身長・血液型・誕生季節・学部に分けたそれぞれのカテゴリーはグランプリ・準グランプリに選ばれる決定的な要素としては結びつかない。グランプリ・準グランプリに選ばれるにあたって決まった規則や項目がなかったため、選ぶ側の人間にとってはその大学のエントリー数・エントリーした人がどこの地域出身なのか・身長はどのくらいあるのか・血液型はなにか・誕生季節はいつなのか・学部はどこに所属しているのかなどについては関係がないと言える。

表 2. ロジスティック回帰分析結果

順位	Odds Ratio	Std. Err.	z	P> z	95% Conf	Interval
エントリー数2	0.000000898	0.000521	-0.02	0.981	0	.
エントリー数3	0.00000109	0.0006342	-0.02	0.981	0	.
エントリー数4	0.000000775	0.0004498	-0.02	0.981	0	.
エントリー数5	0.000000648	0.0003756	-0.02	0.98	0	.
エントリー数6	0.000000712	0.000413	-0.02	0.981	0	.
出身地2	0.9193484	0.2406175	-0.32	0.748	0.550425	1.535542
出身地3	1.180391	0.4702768	0.42	0.677	0.540631	2.577217
出身地4	0.7228978	0.2510317	-0.93	0.35	0.366008	1.427786
出身地5	0.6052277	0.195671	-1.55	0.12	0.321162	1.140548
出身地6	1.406465	0.7152954	0.67	0.502	0.519072	3.810924
出身地7	0.9529868	0.3136166	-0.15	0.884	0.499996	1.816382
出身地8	1.113214	0.638909	0.19	0.852	0.361449	3.428549
身長2	4.438299	4.799311	1.38	0.168	0.533063	36.95344
身長3	5.150041	5.474619	1.54	0.123	0.641155	41.36744
身長4	5.389434	5.7175	1.59	0.112	0.673794	43.10813
身長5	3.872019	4.138753	1.27	0.205	0.476539	31.46126
身長6	3.357259	3.761161	1.08	0.28	0.373575	30.17115
身長7	2.969377	4.683991	0.69	0.49	0.134882	65.36995
血液型2	0.9327037	0.1757046	-0.37	0.712	0.644752	1.349257
血液型3	1.024994	0.1748738	0.14	0.885	0.733666	1.432005
血液型4	0.7956159	0.1918225	-0.95	0.343	0.495997	1.276226
誕生季節2	0.9521478	0.1899749	-0.25	0.806	0.643977	1.407791
誕生季節3	1.011633	0.2046835	0.06	0.954	0.680456	1.503995
誕生季節4	0.9124451	0.1824595	-0.46	0.647	0.616587	1.350266
学部2	0.9193892	0.1688739	-0.46	0.647	0.641431	1.317797
cons	165810.6	96200000	0.02	0.983	0	.

4. 結論

分析の結果から、ミスコンのエントリー数・出身地域・身長・血液型・誕生季節・所属学部のいずれの要素も、ミスコンでグランプリもしくは準グランプリになることとは関係性がないということが分かった。したがって、美貌度を除いたエントリー数・出身地域・身長・血液型・誕生季節・所属学部の6つの要素は、人物の評価に影響を与えないということが分かる。

しかし、ミスコンで順位付けがなされているということは、公開されているエントリー者のプロフィールにある要素以外で、明確な順位付けがなされた基準となる要素があるといえる。その要素は、ミスコン参加者の写真によって判断された、美貌度であると考えられる。このことから、一般的に他人を評価する際の最も大きな判断基準となるのは、美貌度であるといえる。

本稿で扱った美貌度以外の要素では、人の評価に変化を与えられないということが分か

った。しかし、本稿で調べなかった要素の中に美貌度での評価を変えられるものがあるかもしれない。例えば、内面的な要素のならば美貌度以外の要素で、評価を変えられるのではないかと考えた。内面的な要素とは、性格やコミュニケーション能力といった、人間関係を円滑にする能力のことである。コミュニケーション能力が高い、気配りができるといった性格であれば良い影響を与える。逆に自己中心的である、協調性がないという場合は人間関係に悪影響を及ぼし、人物としての評価も下がってしまう。誰にでも分け隔てなく接することができるなど、性格がよいとされる人物は、たとえ容姿が劣っていたとしても高い評価を得ることができる。逆に優れた容姿の人物が嫌な性格をしている場合、容姿で劣る人物より低い評価になることもある。このような性格をはじめとする内面的な要素ならば美貌度による評価を変えることができるのではないか。

内面的な要素は、日常生活の中でも人の評価を左右していると感じることがある。しかし、内面的な要素とは美貌度のように一見してわかるものではない。会話や行動のなかに気遣いなどを感じることで初めて実感することができる。会話などの時間が長くなればなるほど、内面的な要素を知ることができる。容姿が劣る人物が第一印象で優れた容姿の人物にかなうことはないが、時間の経過とともに明らかになる内面的な要素でならば優れた容姿の人物の評価に追いつき、それを超えた評価を得ることができるのではないか。今後の実験では内面的な要素と人物の評価を考えていきたい。もし内面的な要素で人物の評価が変わるのであれば、容姿に劣る人物でも社会的に得られる利益を優れた容姿の人物と同等かそれ以上に受けられるのである。

引用文献

「MISS COLLE ミスコレ | ミスコン・ミスキャンに特化したポータルサイト」,
<https://misscolle.com> (2018年1月10日現在)

ダニエル・S. ハマーメッシュ (2015) 「美貌格差: 生まれつき不平等の経済学」, 東洋経済新報社.

Fisman, R. and Iyengar, S. S., (2008) 「Racial Preferences in Dating」
Review of Economic Studies (2008) 75, 117–132.

小林盾, 谷本奈穂 (2016) 「容姿と社会的不平等—キャリア形成, 家族形成, 心理にどう影響するのか—」, 成蹊大学文学部紀要(2016) 51, 99-113.

中村明,野呂智之,ハスバートル,丸山清輝 (2012) 「ロジスティック回帰分析を用いた既存地すべり地形の地震時の危険度評価」, *Landslides-Journal of the Japan Landslide Society*(2012) 49, 12-21.